

平成29年度 学校評価報告書【国立市立国立第八小学校】

学校教育目標	よく考え、進んで行動する子ども 仲良く助け合い、よく働く子ども 健康でたくましい子ども	重点目標	よく考え、進んで行動する子ども
--------	---	------	-----------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
進んで行動する子ども	よく考え、 主体的に 意欲的に 能力を 育成す 度	教師の学習指導力を高めることを通して、児童の学びへの意欲を高める。	問題解決的な学習過程を重視した授業を推進することで、児童の学習意欲の向上を目指す。	児童へのアンケートにおいて、「授業が楽しい」と肯定的に答える児童の割合を評価する。(4年生以上) A 90%以上 B 80%以上	楽しい A (93%) 分かりやすい A (100%) 進んで取り組む A (91%)	楽しい A (90%) 分かりやすい A (96%) 進んで取り組む A (91%)	年間を通して高い値を示している。今後も分かりやすい授業を心がけ授業研究をしていく。	楽しい授業、分かる授業を心がけ、教材研究・授業研究をしていく。来年度からは国語科・算数科を中心に表現力向上をめざした校内研究を行う。	数値や実際の授業を見ても、楽しく学習している様子が分かる。 夏休みに補習を学校で行うということで、基礎的・基本的な学力をさらにベースアップできるのではないかと。今後も続けてほしい。
		児童一人一人に基礎的・基本的な確かな学力を身に付けさせる。	課題別指導、習熟度別指導、補充・発展的な学習など指導形態の工夫をし、児童の基礎的・基本的な学力の向上を目指す。	ベーシックドリルを活用し、前学年までに配当されている算数の問題の正答率より評価する。(3年生以上) A 90%以上 B 80%以上	3年生 C (76%) 4年生 C (74%) 5年生 C (76%) 6年生 C (74%)	3年生 B (85%) 4年生 C (75%) 5年生 B (85%) 6年生 B (85%)	中間評価(7月)よりも最終評価の方が高い値を示している。各学年の基礎的・基本的な事項を今後も落とさず指導をしていく。	基礎的・基本的な学習が身に付いていない児童に対して夏休みの補習等でベースアップを図り、さらに学力の向上を目指す。	来年度から英語の学習が本格的に始まることである。ますます国際化社会になっていくので、日本語も含めて基本的なコミュニケーションの能力を今後も高めてほしい。来年度、授業時数が増えるようだが、無理なく確保できていてよい。
		必要な情報を正確に取り出す力、比較・関連付けて読み取る力、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力等、資質・能力を向上させる。	主体的・対話的、深い学びの3つの視点及び「くにたち∞」を意識した指導を行い、児童の思考力・判断力・表現力を高める。	理科学習で仮説や考察の場面で、話型を用いて表現させたり、記述の観点を与えたりして、思考したことを表現させる。(発言、ノート 3年生以上) 教師設定基準を90%以上達成した児童が、 A 60% B 50%	B (53%)	B (51%)	理科の成績で思考・表現の観点がA評価の児童が年間を通して半数以上いることを示している。評価指標を今後検討していく。	「くにたち∞」を意識した指導を行い、理科以外の教科でも思考力・判断力・表現力を高めるため授業研究をしていく。また、ノートや口頭で表現することが苦手な児童に対しても、さらに個に応じた指導を行う。	
よく働く子ども	仲良く助け合い、 よく働く子ども	いじめの早期発見、組織的な対応に努める。	年3回「学校生活いじめアンケート」を実施し、聞き取りを丁寧に行う。また、全体に周知が必要とみられる件については、全職員で予防策・早期発見に努める。	学校生活いじめアンケートの結果より評価する。 A いじめをしない児童が100% B いじめをしない児童が90%以上	B 6月→9月 ・友達のこと で悩んでいる 15%→6% ・クラスの友達 で乱暴なことを されている人が いる 9%→2%	B 2月アンケート 結果 ・友達のこと で悩んでいる 8% ・クラスの友達 で乱暴なことを されている人が いる 4%	年間4回(6・9・11・2月)の学校生活アンケートを通して、担任だけでなく、全教職員で対象の児童を見守ることができた。また、児童の中に、いじめはいけないことという意識をもたせることができた。	評価指標Aいじめをしない児童が100%を目指して、学級・学年の連携をとっていく。「いじめ防止対策委員会」を定期的に開催し、学校全体で児童を見守る体制を続けていく。	いじめの定義が変わり、軽微ないじめについても対応すること。いじめをしない児童100%は難しいかと思うが、目指していただきたい。 様々な評価について、数値を挙げて説明してもらって安心する。
		特別な支援が必要な児童のニーズに応じて、学校全体で組織的に対応する。	特別支援委員会やケース会議の充実を図り、児童個々の問題解決に組織的に取り組む。	教職員と保護者で共通理解がとれているかどうかで評価する。 A 保護者との共通理解ができた75%以上 B 保護者との共通理解ができた65%以上	B (66%)	B (65%)	実数では4名増。4名とも新規(1年生・転入生)なので母数も増加するため、パーセントは横ばい。中間報告後、3名が新たに支援開始。	学校での様子を丁寧に見取り保護者に伝えていく。来年度から特別支援教室が開設されるので、情報をしっかり発信していく。	特別支援教育について、保護者との連携することは難しさがあるかと思う。今後も、新しい支援を紹介したり事例を話したりしながら保護者との連携を深めていってほしい。
健康で たくましい子ども	健康な心身を 豊かに 育てる	運動のポイントを意識させながら、児童一人一人の体力向上を図り、運動の楽しさを味わわせる。	体育科の学習において、運動のポイントを明確にし、達成感を味わわせる指導を展開する。また、毎学期のパワーアップタイムの取組で、児童一人一人の体力向上を図る。	○運動に対するアンケート調査で運動が好きという肯定的に回答した児童の割合を評価する。 A 「好き」90%以上 B 「好き」80%以上 ○第5学年の「ソフトボール投げ」「シャトルラン」の記録を全国平均記録まで高める。	○好き A (92%)	○アンケート調査は後日実施予定 ○ソフトボール投げ 全国男子平均22.4m 本校男子平均22.4m 全国女子平均13.8m 本校女子平均15.1m ○シャトルラン 全国男子平均51.8回 本校男子平均56.0回 全国女子平均41.2回 本校女子平均37.3回	○運動に対し好意的に捉えている。 ○運動のポイントを指導すること、継続して取り組ませること、楽しさを味わわせることで能力の向上につながった。	体育科の学習で、運動の楽しさを味わわせる指導を心掛ける。 パワーアップタイムで実態に応じた取り組みを継続していく。 家庭でも運動に親しむことができるよう、学校便りや学年便りなどで情報を発信する。	この会(学校関係者評価委員会)に参加することで、学校のことをよく知ることができてよかった。